

内海博司の纏め

丹羽太貫氏の講演

Armitage と Doll は成人がんについて 5 段階説を、Knudson は小児がんでは Retinoblastoma について 2 段階説を唱えた。さらに 1978 年に src 癌遺伝子が、1986 年に Rb 癌抑制遺伝子が発見され、癌化の多段階説が定着。放射線は、癌化に必要な複数の変異の 1 つを与えると考えられている。発がんの標的は組織幹細胞で、この幹細胞は、通常ニッチにおいて維持されている。ニッチ内・ニッチ間での競合は幹細胞の品質管理の機構として機能し、癌化に対して防護的に機能している可能性が示された。(ニッチとは、幹細胞とそれを指示する細胞が作り出す微少環境のこと)

渡邊正己氏の講演

3.11 後の日本の専門家と言われる人達の発言・行動から、一般の人達が抱いた不信感を嘆いて、科学者は科学的根拠の再現性を明らかにして、その専門性を高め、教育(互いの知識を高める)、信頼(価値観を認める)、相互理解(対話を重んじる)を進める必要があることを強調した。また、氏のビタミン C の研究から、放射線発がんを引き起こす DNA 以外のターゲットとして、長寿命ラディカル(スルフォニルラディカル)を発見。その重要性についての持論を展開した。